

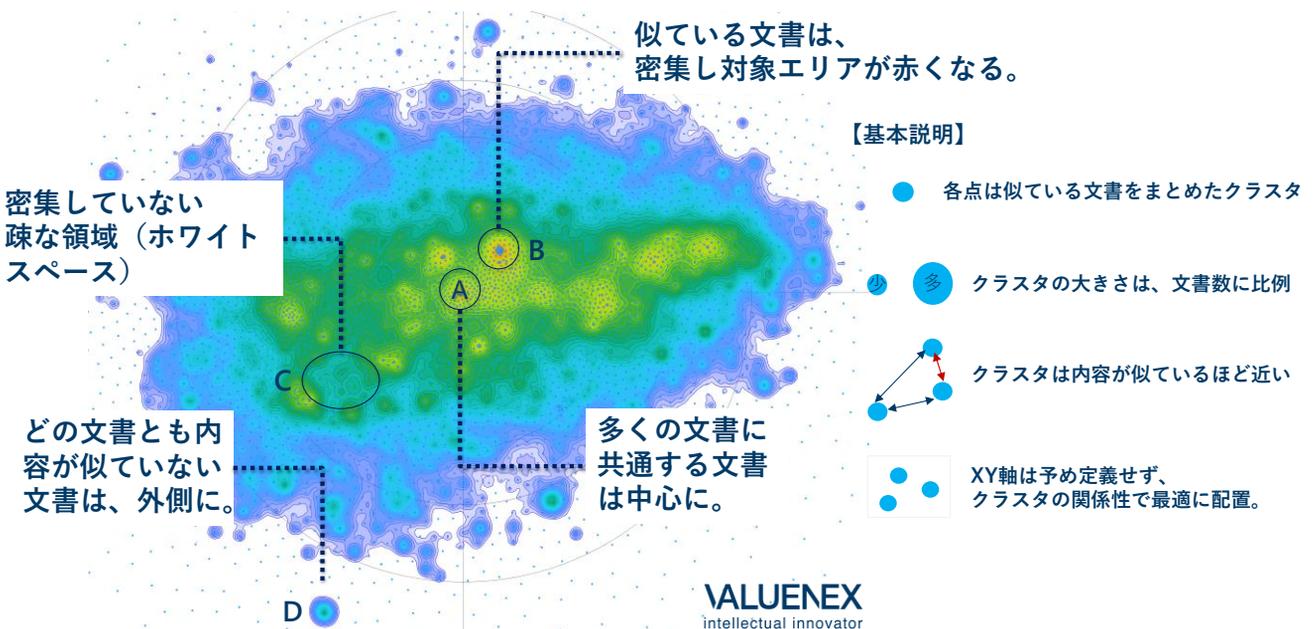
VALUENEX 技術俯瞰解析レポート

事業環境が、多様化・複雑化し、状況も常に目まぐるしく変化してゆくなか、全体像を俯瞰し、次の動向を読む力＝**大局観**が求められています。
 VALUENEX技術俯瞰レポートは、多様化・複雑化した世の中の状況を映す大量のテキストデータを、独自の技術で解析・可視化、
全体像を俯瞰するアプローチにより、大局観の獲得とそれに基づく次の一手を皆様にご検討される際の気づきとなるレポートをご提供させていただきます。

技術俯瞰解析レポートテーマ例

調査カテゴリ	レポート例
先端技術動向調査	<ul style="list-style-type: none"> ヘルスケアインフォマティクスの技術動向俯瞰 日本のクロスリアリティ (XR) 技術の動向分析 俯瞰図で解剖したSleeptech業界の実態
話題の業界・技術トレンド分析	<ul style="list-style-type: none"> 広がりに見える陰、衛星産業の動向を追う インターネット広告関連技術から読み解くマーケティングの未来 世界が注目、フェイクミートは植物由来から新たなトレンド
技術観点でみるM&A、競合などの企業間関係	<ul style="list-style-type: none"> 新たなライバル関係の誕生！？特許から見た、トヨタ自動車・NTT・GAFAの技術解析 ヤフーとLINE 会見内容と技術から未来戦略を紐解く ゼロックスグループの再編を特許から俯瞰する
ビジネス、社会環境関連調査	<ul style="list-style-type: none"> 地磁気減少により損失を被る可能性のある企業 共同出願および引用情報を用いた大学発技術の活用に関する分析 特許文献で語られる「意思決定」に係るコンテキスト 「感情計測」から「感情制御」へ - 新たな時代へと進む心理学 -

俯瞰解析図の見方



技術俯瞰解析レポート内容例

VALUENEX
intellectual innovator

(2020.06.08 配簿)

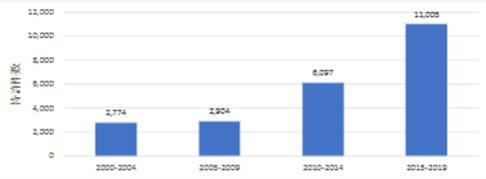


図1. 特許件数(米発権主簿年別5年間合計)の推移

図1に、米発権主簿年別で5年毎に合計特許件数推移を記載した。2005-2009年からの2010-2014年成長率+110%、2010-2014年からの2015-2019年成長率+80%の期間において特許件数が急増している。三菱電機のG16H国際特許分額が新設された2018年以前の出版特許については順次IPOを付与している影響であるため、2018年以前の出版特許では相対的にG16H特許が少なくなっている可能性もあるが、図2に示す様に、2010年以降、USを中心とした海外国での特許件数が相対的に増加しており、海外国での特許件数増加も影響していると考えられる。USでは、政府主導による病院のデジタル化(電子カルタの普及など)やモバイルヘルス技術革新の影響が大きいと考えられる。

対象技術、テーマ文献数の年次推移を確認

対象国、地域別文献数の推移を年次で確認



図2. 主要地域別特許件数(米発権主簿年別5年間合計)の推移

3. クラスタ解析による技術の輪廓図

2010年以降、ヘルスケア関連データに特許関連データに特許関連データをVALUENEX株式会社のDocRadarは、類似する技術公開と自己

解析対象技術、テーマ、企業の文献を二次元可視化。マクロ視点で調査

VALUENEX
intellectual innovator

(2020.06.08 配簿)

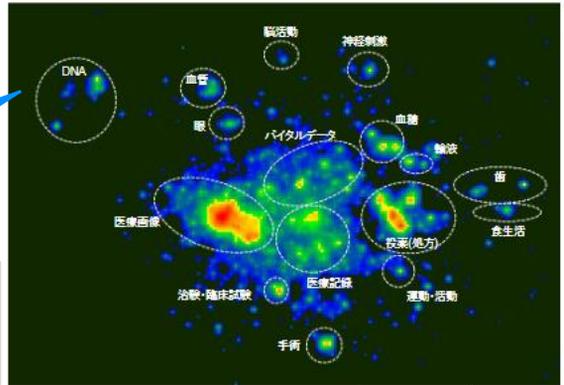


図3. ヘルスケアインフォマティクス関連特許全体図(図中の技術領域と呼ぶ)

上記図3は、ヘルスケアインフォマティクス関連特許の俯瞰解析結果である。俯瞰図の中央付近には、「医療画像」「医療記録」「バイタルデータ」「治療(地方)」といった、国家発行者の保有する汎用データを活用する技術領域が配置されている。一方、俯瞰図外縁には、特定分野に特化した技術領域が配置されており、俯瞰図右側には「血糖」「指」「食生活」「運動・活動」といった生活習慣に関連した技術領域、俯瞰図上方には「脳活動」「神経刺激」といった脳・神経領域に関連した技術領域が配置されている。

解析結果を深堀、ミクロ視点で状況把握、検証

VALUENEX
intellectual innovator

(2020.06.08 配簿)

表2. 主要内資系企業の海外出願率

*WFO, VIE, COI 出願特許件数/出願特許件数とし、5年間の出願特許件数における海外出願特許件数/出願特許件数

企業内資系企業	特許出願件数			
	2010-2014	2015-2019	2010-2014	2015-2019
オムロン	97%	89	97%	141
富士フイルム	71%	89	61%	128
ニコン	88%	18	61%	82
パナソニック	0	0	23%	7
日立	18%	14	49%	89
日立製作所	33%	9	38%	12
日立システムズ	83%	10	97%	81
日立システムズ	0%	0	0%	0
日立システムズ	100%	37	100%	30

この様な現状を鑑み、主要内資系企業はどのような特許戦略アプローチが考えられるだろうか。視察対象としては、各社の事業領域や保有技術ポートフォリオ等による制約があるもの、想定される影響力可能性を整理した。

① 主要技術領域内の成長ドライバー技術に注力

図6のとおり、内資系企業が高いインテンシブを持つ主要技術領域において、2015-2019年に顕著な成長力を持つ技術は「医療画像」「バイタルデータ」をもとにしたイベント抽出、「医療記録の介体記録・計測」である。概して、データの単純処理ではなく複雑学習等を介した高度システム関連技術が多く、当該技術への投資が重要と考えられる。

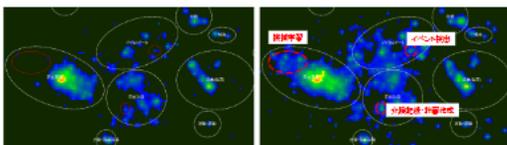


図6. 主要技術領域における、2010年以降の5年毎(米発権主簿年ベース)の技術特許動向

©2020 VALUENEX Japan Inc.